



福祉アクセシビリティに着目したソーシャルワーク実践に関する研究

保健福祉学部 人間福祉学科

助教 越智 あゆみ (おち あゆみ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 4517号室
Tel・Fax 0848-60-1219
E-mail ochi@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 地域生活支援, 障害児者福祉

キーワード： ソーシャルワーク, 福祉アクセシビリティ,

●研究内容

○福祉アクセシビリティに着目したソーシャルワーク実践について研究しています。

「福祉アクセシビリティ」とは、「必要なサービスを利用できること」あるいは「サービスの利用のしやすさ」のことです。具体的には、距離的な近さや時間的迅速性、情報取得の容易さ、利用者になじみやすい窓口対応などのほか、サービスの利用において支援を必要とする人への権利擁護活動や、積極的に地域に出向いてニーズキャッチしていく活動も福祉アクセシビリティの重要な要素と考えることができます。

地域の中には、生活上の困難を抱えていても、どのように対処すべきかわからなかったり、自ら支援を求めて行動することに難しさのある人々がいます。このような人々の生活ニーズを発見し、ニーズに応じた社会資源（機関、人、制度など）に結びつけるソーシャルワーク実践について、福祉アクセシビリティという概念に着目して研究しています。

○これまで、精神障害をはじめ、学習障害(LD)、注意欠陥/多動性障害(AD/HD)、高機能自閉症、アスペルガー障害など、様々な障害によって生活上の困難を抱えている人たちの地域生活支援に関する実践研究や調査研究に取り組んできました。これらの人々を対象とした地域生活支援

の課題として、次のようなことが指摘できます。

(1) 困っている状態が見えにくい場合には、周囲が支援の必要性を認識できず、必要なサービスに結びついていないことがあります。

(2) 社会福祉法制度上の障害認定基準は、機能障害の程度が中心となっています。そのため、対人関係の形成・維持の困難や、就労継続の困難といった社会生活上の困難があっても、障害の程度が軽度と判定されて十分な制度的支援が受けられない場合や、法制度上の障害者として認定されない場合も少なくありません。

(3) 支援が必要であることがわかっていても、支援に活用できる社会資源（サービス、人材など）が少なく、実際の支援を行うことが難しい場合もあります。

これらの課題の解決に取り組むことは、ソーシャルワークの重要な役割といえます。障害の有無にかかわらず、地域の中で生活上の困難を抱えながら生活している人々に対して、地域を基盤としたソーシャルワークをどのように展開していくか、その具体的方法と体制整備について、研究を深めていきたいと考えています。

●想定される連携先

- ①当事者および家族
- ②地方自治体
- ③地域住民とその団体